

ものさしの読みこくさを改善

# 23&78目盛

一本のものさしを想像してほしい。どんな長さのものさしであれ、数字と線が目盛が刻まれている。昔から見慣れているその目盛

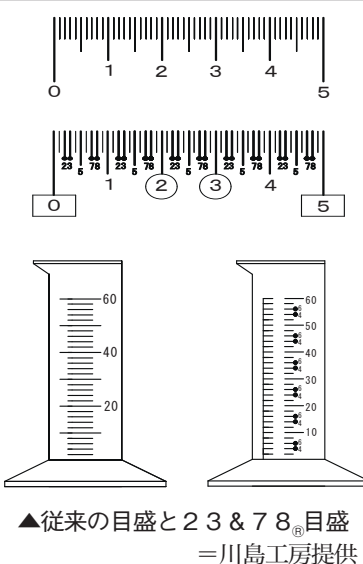
に、疑問を持ったことがある人はいないだろうか。川島工房（北海道余市郡赤井川村）は、ある画期的な製品

を生み出した。23&78目盛である。この製品はこれまでの目盛に加え、2、3、7、8ミ

メートルなどの細かい目盛線に当たるところを強調し、数字を添えている。従来の製品であれば0.5ミメートルと5ミメートルのみが強調され、間の4本の線は数えることで値を判別していた。しかし、2、3、7、8ミメートルにも数字を振ることで、間の本数を迅速かつ的確に値を読み取れる。単純でありながら、強力な効果を生む発想ではないだろうか。

川島工房では23&78目盛を利用した、直尺や曲尺、メスシンダーや圧力計など、さまざまな機器の実用化を見据えている。23&78目盛は、試行錯誤を重ねた末、より効果的な表示に成功した。完成した後、特許出願も行った。線の幅や長さを変え、数字

を丸や点などで強調することで、シンプルだが汎用性の高い、見やすい目盛を実現した。23&78目盛は工場での値の誤読による事故の防止や、広い分野での研究の迅速化などに役立つだろう。また、この目盛を応用できる機器は多い。それらが、この目盛のユーザーに成り得る。23&78目盛は、多くの可能性を秘めているのである。



開発のきっかけになったのは、代表の川島和則さんが家具作りを趣味にしていたことからだった。老眼のためにミメートル単位の目盛の判読に苦労した経験から、23&78目盛の

五訂日本食品標準成分表によると各飲み物の100ミリットルあたりのカフェイン含有量は、コーヒーが60ミリグラム、緑茶（煎茶）が20ミリグラム、紅茶が30ミリグラム、ウーロン茶が20ミリグラムである。一方で、生協で売られているエナジードリンクは主に2

種類で「モンスターエナジー」と「レッドブル・エナジードリンク」であるが、それぞれの100ミリットルあたりのカフェイン含有量は40ミリグラム、32ミリグラムである。本学の学生はエナジードリンクといえど「モンスターエナジー」を飲んでいないイメージが強いが、それはカフェイン含有量が多いからなのかもしれない。

若宮校舎とは、2009年度まで使用されていた数学科専用の校舎で、正式には4号館という。実際に校舎があった場所を訪れてみると、現在はマンションが建ち、その面影を確認することはできない。

若宮校舎は研究棟として建てられたわけではなく、研究室としては使用しづらかった。そこで現在上がっていた。そこで現在の7号館へ移る際、教員たちで研究室のレイアウトを考えた。



ある。関数解析は偏微分方程式を理解するためのツールであり、簡単に言うと微積分が少し難しくなった分野である。大学時代に培った物理的な直観から数学の証明につながることは珍しいことではない。自身の研究のモチベーションにもつながり、役に立つという。出張先の学会などで研究分野について、他の数学者が集まる中、月に1回ほどのペースで発表を行っている。石田先生の研究は理論分野によつて、理

「受付からW-11教室ポイラー室あたりにかけて、以前はここに警備員室がありました。面倒見のいい警備員さんでしたよ」真田教授は、自身の学生時代を懐かしみながらそう語ってくれた。校舎を出入りする学生に優しく接してくれた住み込みの警備員。校舎は民家に囲まれていて、大学は町内会にも入っていた。そのため、時には騒がしい学生に厳しく注意も

若宮校舎は研究棟として建てられたわけではなく、研究室としては使用しづらかった。そこで現在上がっていた。そこで現在の7号館へ移る際、教員たちで研究室のレイアウトを考えた。

若宮校舎は研究棟として建てられたわけではなく、研究室としては使用しづらかった。そこで現在上がっていた。そこで現在の7号館へ移る際、教員たちで研究室のレイアウトを考えた。

若宮よ、永遠なれ

## 教授の歩き方

あつひで 石田 敦英 講師

### 理屈を理解すること

石田先生は、微積分や線形代数といった、工学部の学生であれば当たり前にできなければならない科目を担当している。講義の際に学生に再三注意していることは「数学的な理屈を知っていることはもちろん良いことだが、結果が

大事」ということだ。学科のテストにおいても、理屈よりも計算結果を非常に重視している。これは、

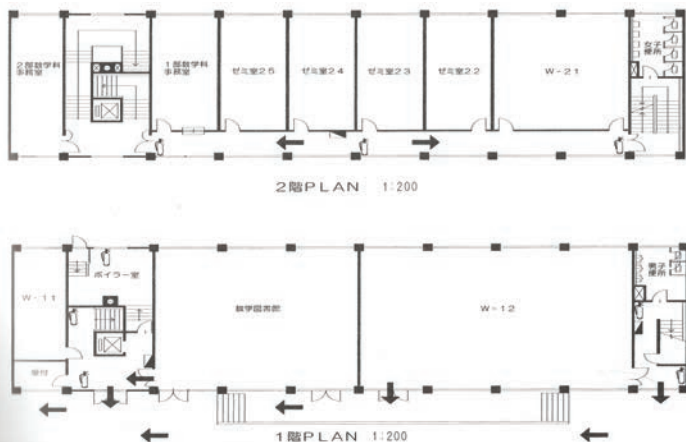


### 研究を社会に活かす

石田先生が今ややっている研究に興味を持ったのは、大学時代の物理の先生に影響された点が大いである。石田先生は学部生時代に、自身が所属している学科はもろろ、他学科の必修の授業も履修し、240もの単位を得て卒業したという。その中で、石田先生が受けていた物理の授業が今の自身の研究テーマにつながっていると語った。石田先生の研究内容は、偏微分方程式、関数解析という分野で

### 数学に対する姿勢

最後に、大学を卒業してからも数学を学んでいきたい、社会の役に立てるようにしたい学生への一言を聞いた。「数学の理屈を理解することは重要である。そのうえで、興味を持った分野であれば何でもいいから授業を受けてみたい、勉強してみたいという方がいい」と語った。



## 理科大生に人気のカフェイン 摂り過ぎにはご注意!



コーヒーやお茶に含まれるカフェイン。カフェインの効能は眠気覚ましなどの興奮作用や尿の排出を促す利尿作用などが広く知られている。主にコーヒーや紅茶、緑茶に多く含まれているが、最近では

若宮校舎とは、2009年度まで使用されていた数学科専用の校舎で、正式には4号館という。実際に校舎があった場所を訪れてみると、現在はマンションが建ち、その面影を確認することはできない。

若宮よ、永遠なれ

## キャンパスの謎 ～若宮校舎～

住宅街の中の、とあるマンション。ここにかつて、学舎があったことを知る人はどれほどいるだろうか。神楽坂キャンパス旧4号館、通称「若宮校舎」。今回、若宮校舎で学び、教鞭を執っていた理学部第一部数学科の真田克典教授へのインタビューを通して、今は無き若宮校舎を振り返ります。

「受付からW-11教室ポイラー室あたりにかけて、以前はここに警備員室がありました。面倒見のいい警備員さんでしたよ」真田教授は、自身の学生時代を懐かしみながらそう語ってくれた。校舎を出入りする学生に優しく接してくれた住み込みの警備員。校舎は民家に囲まれていて、大学は町内会にも入っていた。そのため、時には騒がしい学生に厳しく注意も

若宮校舎は研究棟として建てられたわけではなく、研究室としては使用しづらかった。そこで現在上がっていた。そこで現在の7号館へ移る際、教員たちで研究室のレイアウトを考えた。

若宮よ、永遠なれ